

被災地 岩手・大槌町に派遣

宝塚市職員が自殺

東日本大震災で被災した岩手県大槌町に派遣されている宝塚市の男性職員46人が、宿舍として暮らしていた同県宮古市内の仮設住宅で死亡していたことが4日、分かった。首を突いた状態で発見され、遺書のようなものが残されていたという。

今日(2)日から連絡を取れないことを心配した男性職員の家族が3日午後、宮城県南三陸町に派遣されている宝塚市職員に連絡。同職員が同日午後7時ごろ、仮設住宅を

訪れ、死亡しているのを見つけた。

宝塚市によると、男性職員は上下水道局の土木職。昨年10月から今年3月までの予定で大槌町に派遣され、土地区画整理事業などを担当していた。昨年末も30日までは、町役場で復興計画に関する住民のドヤリング調査を行っていたという。

大槌町では4日の仕事始め式で、碓川豊町長が男性職員の死亡を報告。「非常に動揺しているが、一刻も早い復興に努めたい。悩みがあれば上司や同僚に相談してほしい」と語り、全職員で黙とうをささげた。

中川智子市長は「被災地復興のため派遣している職員が亡くなったことは痛恨の極み。ご家族の悲しみを思うと言葉もない。詳細については現在確認作業を急いでいる」とコメントした。

宝塚市からはこの職員を含めて計5人が岩手、宮城県内に派遣されている。

「国は責任持ち心身ケアを」

宝塚市長 きょう要望書提出

被災地派遣職員自殺

東日本大震災の復興支援で、岩手県大槌町に派遣していた宝塚市職員の自殺を受け、中川智子市長は10日、被災地で勤務する職員の心身のケアを求める要望書を、根本匠復興相と谷公一復興副大臣に手渡す。

今日(3)日、宿舍として

いた岩手県宮古市の仮設住宅で職員が死亡しているのが見つかり、遺書のようなものが残っていた。職員は昨年10月から大槌町に赴任し、区画整理事業などを担当。宝塚市人事課によると、1カ月の時間外勤務は、11月が約95時間、12月が約

84時間だった。要望書では被災自治体の職員や派遣職員を対象に、肉体的、精神的ストレスに関する調査実施と必要なケアを求めている。

同市は「被災地派遣は地方自治体に大きな負担を強いている。国が責任を持つて対応してほしい」と

としている。(松本大輔)

復興政務官がサポート言及

岩手県大槌町に派遣されていた宝塚市の職員が自殺した問題で、長島忠美復興政務官は3日、「復興に関わる使命感が必要

以上のプレッシャーにならないうつ状態にしたい」と考えるを示した。大槌町述々、国として派遣職員に記者の質問に答えた。